

伊豆沼・内沼 サンクチュアリセンターニュース

Sanctuary Center News

Vol.190

令和8年度4月号

伊豆沼周辺の堤防において野火(野焼き)が行われました。

3月14日に、本年度の伊豆沼第2・第3工区堤防の一斉清掃(野火)が、伊豆沼漁業協同組合、伊豆沼沿岸土地改良区、当財団の主催で行われました。堤防は、背丈の高いヨシ原に覆われ、そこでは、多種多様な湿生植物が生育しています。また、オオヨシキリなどの鳥類、タヌキ、キツネ、ノウサギといった動物の棲みかとなっています。しかし、ヨシ原をそのまま放置しておくとならば、ヤナギなどの樹木が入り込み、見通しの悪い林になってしまい、ヨシ原を棲みかとする多くの生き物は、生息することができなくなります。また、見通しの悪い林はゴミの不法投棄が行われやすい場所でもあります。そこで、ヨシ原を維持するための管理が必要となっています。野焼きは、大規模なヨシ原を維持するには最も効果的な手法です。枯れ草や侵入した樹木の若木を焼いてしまうことで、ヤナギ林になってしまうのを防ぐ効果もあります(これを遷移の退行といいます)。野焼き後のヨシ原は、地面まで日光が届くようになります。そのため、野焼きを行っているヨシ原は、健全な状態を維持できます。

野火の実施に当たっては、登米、栗原両市の共催のもと当日には消防団を派遣していただきました。また、両市消防署へは事前に届出を行い、安全第一で行っています。地域の皆様にも交通規制などにご理解とご協力をいただき、事故なく無事実施出来ましたことに感謝いたします。

野火を実施した後の堤防にヨシが青々と芽吹く様子
(2023年4月撮影)



当日は地域の消防団に現場待機をお願いし
安全に野火を実施出来ました





伊豆沼の堤防で清掃活動を行う参加者の皆さん



林の中まで丁寧に作業していただきました

今回で64回目を迎えた伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンが、3月20日の春分の日に開催され、若柳、築館、迫の3地区合わせて82団体、594名の皆さんが参加し、伊豆沼、内沼周辺の堤防や道路脇の清掃活動に取り組みました。

当日は好天に恵まれ、午前8時30分から約2時間の作業で集められたごみの量はおよそ480kgにのぼり、中には古タイヤやなどの粗大ごみもありました。ご参加いただいた皆様、大変お疲れ様でした。



集めたごみは、分別して回収車へ



開会式の様子（若柳会場）

今年のガンカモ類の北帰行

例年通り、10万羽近いガンカモ類で今冬も賑わった伊豆沼・内沼。彼らの北帰行を振り返ると、1月中旬以降厳しい寒波でしたが、2月上旬の気温の上昇とともに北帰行が平年並みに始まり、その後、気温の高い日が続いたことで、渡りが一気にすすみました。2月6日に13万羽近くいたマガンが、19日には8千羽あまりに激減したのです。そして2月に寒い日が続いた昨年よりも北帰行が早く終わりました。



北帰行の終わった3月1日に、100羽ほどのハクチョウが突然現れました。オオハクチョウとコハクチョウ半々くらいでした。渡り途中のハクチョウと思われ、少いうつむき加減になっているのがわかります。そして時々目をつむります。これは大休止ではなく、小休止のときの姿勢です。

伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～ カタクリ ～



カタクリは、山野に春の訪れを告げる植物として知られています。その美しい花や若葉は山菜として、根は「片栗粉」の原料として、北国の人々に利用されてきました。

そんなカタクリですが、伊豆沼・内沼ではとても珍しい植物です。昔から維持されてきた明るい林を好むのですが、そのような環境が伊豆沼・内沼の周りには少ないためかも知れません。この可憐な植物を、いつまでも残していきたいですね。

